



「移行支援コミュニティ」としての学校を考えるシリーズ①

「生きづらさ」とともに生き、学ぶ若者を支える学校

いま、中学校を卒業した若者の、99%が後期中等教育へと進むことを選択しています。後期中等教育機関は、「子ども期から成人期へ」「教育から社会へ」と若者をつなぐ、「移行支援コミュニティ」としての重要な役割を担っています。



しかし、学力不振や学校への不適応、不登校経験、病気、障がい、経済的条件や社会関係における困難など、さまざまな「生きづらさ」を持つ若者にとって、義務教育ではない後期中等教育を修了することは、決して平坦な道のりではありません。

こうした若者の学びを支え、社会への移行を支援する「学校」の在り方を考えるために、「移行支援コミュニティ」としての学校を考えるシリーズ」を企画しました。



第一回は、「高等専修学校」、「NPOによる通信制高校との技能連携」に焦点をあて、パネラーの方々から、それぞれの実践についてお話いただくとともに、必要な支援とは何か、学校には何が求められているのかを皆さんと考えたいと思います。



2014年7月16日(水) 18:30-21:00

大阪市立大学創造都市研究科梅田サテライトキャンパス(大阪駅前第二ビル6F) 104教室



パネリスト 学校法人岡崎学園 東朋高等専修学校校長 太田功二氏
特定非営利活動法人トイボックス スマイルファクトリーハイスクール
石本智一氏

ディスカッサント 弘田洋二先生(大阪市立大学創造都市研究科教員)
司会 阿久澤麻理子(大阪市立大学創造都市研究科教員)

★参加費無料。申し込みは、akuawa@gsc.osaka-cu.ac.jpまで(お名前、参加人数をお教えてください)

学校法人岡崎学園 東朋高等専修学校:戦後、財団法人コンドル洋裁女学校として開校し、女性を支えた歴史を持つ学校である。1976年に専修学校となり、86年より科学技術学園高等学校と技能連携を開始。現在、高等専修学校に「総合ビジネス高等課程」の「普通科」と「総合教育学科」(特別支援コース)があり、「普通科」では技能連携による高卒資格の取得ができる。「総合教育学科」は少人数制で、「基礎学力」「生活習慣確立」「人間関係を含めた社会性の育成」を基本に、社会で自立して生きていく力を養う特別支援教育を行う。また、不登校傾向の生徒のための「ほほえみクラス」を置くなど、特色ある支援体制を持つ。高等課程を卒業後、社会に出て就労する力を養うため、専門課程「総合キャリア学科」(1年)も置く。

スマイルファクトリーハイスクール:2002年に活動を始めたスマイルファクトリーは、池田市教育委員会の委託を受け、不登校児童生徒のための教育相談事業を2003年9月に開始、池田市立山の家を拠点として、在籍校と連携した不登校生のためのスクーリング、不登校だけでなくひきこもりや学習障害、注意欠陥障害、発達障害等に関わる教育相談を行ってきた。

2007年4月、高等部としてスマイルファクトリーハイスクールを開校。星槎国際高等学校と連携し、大阪府教育委員会の認可を受けた「技能教育施設」として、若者の学びを支える。



今後も引き続き不定期に、通信制高校、サポート校、フリースクールの実践などをとりあげ、移行支援コミュニティとして、の学校の役割を考えていきたいと考えます。